

↑ (ミャンマーとの国境近くの町)

※10/21～23、ミャンマーのラカイン州で、仏教徒がイスラム教徒(ロヒンギャ族)を襲撃

小島正憲

↑ (バングラデシュとの国境沿いの州)

1. 前回のバングラデシュ短信で、下記のような情報を未検証のまま伝えた。

ムハマド冒瀆映画事件の余波か？バングラデシュ最南部でイスラム教徒が仏教徒を襲撃

9/30、バングラデシュ最南部、ミャンマー国境近くのコックスバザールのラム郡で、大規模なイスラム教徒の仏教徒への襲撃事件が起きた。イスラム教徒、約2万5千人が仏教寺院、ヒンズー教寺院などを破壊し仏教徒の家に放火した。現地の仏教徒の青年が、フェイスブックにムハマドを冒瀆する映像を流したことに、イスラム教徒が怒りを爆発させたことが原因といわれている。しかしその背景には、隣国ミャンマーで、仏教徒に迫害されているロヒンギャ族の積年の恨み、イスラム過激派とのリンク、BNP(バングラデシュ国民党:現政権との対立党)の策動などがあると推測されている。なおバングラデシュにおける仏教徒は1%ほど。



2. 10/19・20・21、私は現地を訪ね、その真相を確かめた。以下、ラム市でのイスラム教徒の仏教徒襲撃の真相。



- ・バングラデシュの最南部、コックスバザール県の東方15kmにあるラム市には、現在、仏教徒約1万人が居住。
- ・9/30深夜、ラム市で、イスラム教徒多数が仏教寺院や仏教徒の住居を破壊、放火、略奪。金銀の仏像が多数盗まれ、石像などは鼻が削られ、腕がへし折られ、首と胴が切り離されたりし、完全に破壊された。10/20現在、まだ仏教寺院のほとんどが破壊されたままであった。また仏教徒の住居もまったく再建されておらず、住人の仏教徒たちはテント暮らし。
- ・仏教徒の話によると、襲撃の中心になったイスラム教徒は、ラム市に住むイスラム教徒ではなく、チッタゴン周辺からバスで動員されたものだという。それにラム市のイスラム教過激派の若者たちが便乗し、暴れたものと思われる。さらにこの事件は、事前にガンパウダーなどを用意して、突然、大量のイスラム教徒が計画的に襲撃したことなどから見て、かなり以前から計画されていたものと考えられ、偶然に起きたムハマド冒瀆事件を利用して行われたものであると、仏教徒は語っている。現地のイスラム教徒も、今回の事件には一様に驚いている。
- ・事件当日、現地のある寺院では、隣に住むイスラム教徒が僧侶をただちに自分の友人宅に避難させ、助けた。しかし別の現場では、寺院前の住宅が焼き討ちにあったのに、誰も助けに来なかった。警察もまったく動かなかった。
- ・現在、ラム市には110人ほどの兵士が入って、各寺院の周辺で警戒に当たっている。中国の暴動現場とは違い、そこに緊迫感はない。
- ・現在、現地では、仏教徒とイスラム教徒の融和のために、住民の間で、自主的に「平和会議」が立ち上げられていた。会長は仏教徒代表のウットンジー氏(右の写真の緑のTシャツ)、副会長はイスラム教徒代表のハルノー氏(白いシャツ)。



・現地では、仏教寺院や仏教徒の住居の再建のために、多くのボランティア団体から寄付が寄せられている。しかし何百年と続いてきた寺院が完全に破壊、略奪されており、再興するにはかなりの資金と年月がかかりそうである。また仏教徒の住居の再建への寄付が、末端の家庭に行き渡るには、まだ時間がかかりそうであり、途中のピンハネなどで金額が少なくなることもあるようで、末端の家庭では、直接の寄付を望んでいた。

・ヒンズー教寺院の破壊は、確認できず。

・ロヒンギャ族問題は、今回の事件には、全く関係がなかった。ラム市には、ロヒンギャ族はほとんど居住せず。

ロヒンギャ族の難民キャンプはラム市の南方150kmほど(車で3～4時間)のテケナフという場所にあり、そこからラム市に来ることは不可能と思われる。なお、テケナフの難民キャンプには、現在、登録済みのロヒンギャ族が5万人、未登録が25万人、合計30万人が居住している。さらに難民キャンプ周辺の山中には、密入国したロヒンギャ族20万人ほどが、潜んでいるという。難民キャンプへの出入りは、軍隊によって厳重に規制されており、無許可で進入した場合、射殺もありうる。事前に申請し許可が出れば、警官2名が随伴で、内部の視察が可能ということであった。



《破壊された仏教徒の住居》



《難民キャンプ前の看板》

難民キャンプ前には、ナフ川が流れており、対岸はミャンマー。川幅が乾季には500mほど、浅くなり、歩いて渡れるという。なお、ミャンマー側からの情報によれば、最近、バングラデシュに密入国したロヒンギャ族は、バングラデシュの兵士に捕捉され、ミャンマーに追い返されており、その数は年間で1000人に上るといふ。

なお、テケナフ周辺は、平地続きのバングラデシュの風景とはまったく異なり、奇怪な岩山あり、緑に覆われた深山ありというミャンマーに近い風景である。

・一部で今回の襲撃事件は、イスラム教過激派やBNPの策動の結果であるとの推測があるが、現地での聞き込みでは、確証を得ることはできなかった。現地の仏教徒たちは、その疑いを捨てていないようだったが、彼らの口は固く、言質を取ることはできなかった。

・現地の仏教寺院を回っていると、ある寺院の僧侶から、「私は2009年4月に、日本の仏教界の招きで行ったことがある。桜が綺麗でした。今回、このようなことになって悲しいが、私の歩んできた人生の結果でもあり、私は甘んじて受け入れている。もし日本にお帰りになったら、日本の仏教界の皆様はこの窮状を伝えていただきたい」と、頼まれた。

・破壊された仏教徒たちの住居を訪ね、彼らから、いろいろなことを聞き出していたとき、数台のパトカーがけたたましくサイレンをならしながら、私の方に向かってきた。私は通訳の腕を掴んで、すぐに現場を逃げ出し、一軒の家に逃げ込み、デジカメのメモリーを予備のものに入れ替え、メモはくしゃくしゃにしてゴミ箱に捨てた。過去の中国での経験から、条件反射的に私の体がそのように動いたのである。次の瞬間、パトカーは私たちが隠れた家の前を通過していった。続いて何台もの高級車が、目の前を通り過ぎて行った。どうやら政府高官が現場視察に来たようであった。私は安堵し、ゴミ箱からメモを拾い出し、帰路に着いた。翌日の新聞には、チッタゴン政府の役人と警察署長が現地を視察したという記事が載っていた。

### 3. 10/21～23、ミャンマーのラカイン州で、仏教徒がイスラム教徒(ロヒンギャ族)を襲撃 ← 未検証

10/21～23、ミャンマーのラカイン州ミンビャーで、仏教徒たちがイスラム教徒(ロヒンギャ族)の住居やモスク(寺院)などを襲撃、放火、破壊した。21日には約20軒、22日には120軒、最終的には400軒に及ぶという。その最中、イスラム教徒3人が死亡。ミャンマーのラカイン州では、6月に仏教徒のイスラム教徒への襲撃が起きてから、両民族間の小競り合いが続いていた。今回の直接の原因については、現在のところ不明。**バングラデシュのラム市でのイスラム教徒の仏教徒襲撃事件との関係についても不明**。テインセイン大統領は、現地に戒厳令を敷いた。

この情報は未検証なので、近日中に追跡調査を行う予定である。

以上